

高収量と省力化との両立が可能なハウスマカン垣根仕立栽培技術

樹齢7年生で慣行の1.7倍となる単収10tを達成し、多用ネットで枝吊り作業を省力化できる、ハウスマカンの垣根仕立栽培技術

研究開発の背景

- ・ハウスマカンは暖房経費の割合が高く、燃料価格変動に対応できる収量を確保する技術が求められている。
- ・生産者の高齢化や新規就農に対応するため、早期成園化ができ、汎用機械の導入が可能な省力的栽培技術の確立が求められている。

研究成果の内容

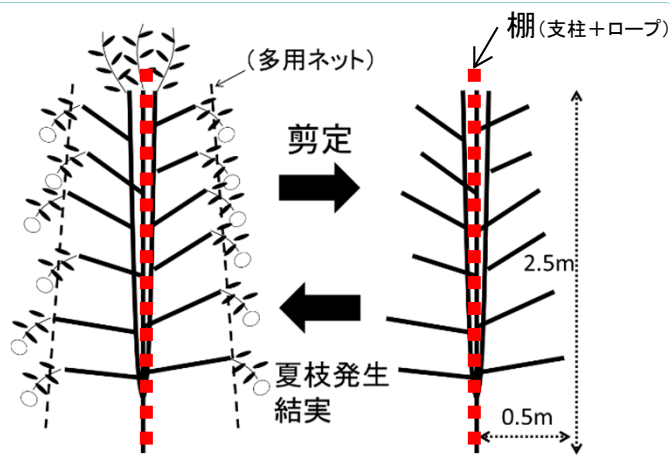
従来の開心自然形のメリットを活かした3本主枝垣根仕立て法



果実品質の比較

	垣根	現地
1果平均重(g)	83±6	88±4
糖度(Brix)	12.5±0.5	12.0±0.2
滴定酸(%)	0.80±0.04	0.81±0.03

平均値±標準誤差を示す

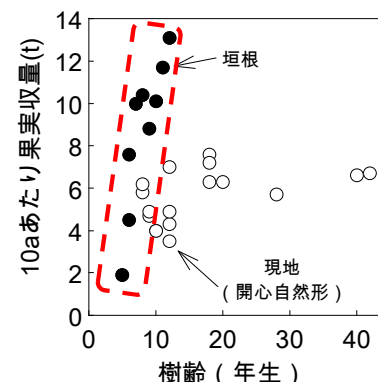


- ・列間2m、株間1m、500本/10a植栽、3本主枝(棚に対し同一直線上)で永久的な側枝を配置
- ・果梗枝を切り返す弱剪定を主体
- ・葉面積指数は樹齢10年生で4以上
- ・多用ネット(再生海苔網180cm×18m)で摘果+枝吊り作業時間6割減

導入メリット

早期成園化が可能

- ・2年生苗3月植栽
 - ・無加温ハウスで2年半育成
- ↓
- 樹齢7年生で単収10tをクリア(慣行平均6t)



高収益化が可能

(現地慣行と比較して4倍の収益)

10aあたり収益の試算*

	垣根	現地
果実収量(t)	10	6
生産経費(万円)	252	252
販売・一般管理費(万円)	200	120
収益(万円)	287	71

*主に大分県H27経営指標による。垣根・現地とも青果率98%、青果単価755円/kg。垣根の販売、一般管理費は、現地慣行と比較し、単純に収量に比例して増大すると仮定。試算には格外果実販売額および家族労働費は含めていない。

期待される効果

- ・ハウスマカン経営の安定化による高品質な国産夏果実の安定供給に寄与。
- ・温度管理の見直し、マルドリ方式、および機械化を併用した超集約型施設カンキツ栽培の実現。

開発機関: 大分県農林水産研究指導センター 予算区分【県単独予算】

導入をオススメする対象

全国のハウスマカン、施設カンキツの生産者